11月5日は「津波防災の日」、「世界津波の日」です

11月5日は「津波防災の日」、そして国連が定める「世界津波の日」です。この日は、1854年（安政元年）に和歌山県広村（現在の広川町）で起きた「稲むらの火」の逸話に由来します。津波の到来を察知した浜口梧陵が、稲束に火をつけて村人を高台へ導き、多くの命を救ったという実話です。この行動は、災害時における「自助」と「共助」の大切さを象徴するものとして、今日まで語り継がれています。

鳥羽市では10mを超える高さの津波が予想される地域があります。これは3階建ての建物が完全に水没するくらいの高さになります。津波は沿岸の地形などの影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。



水平避難
立ち退き避難（原則!）
危険な場所から津波避難場所や、まちで決めた避難場所へ避難する。



垂直避難
外への移動が危険なときや津波の到達まで時間がないときなど、1階から2階以上など低層階から上層階へ移動する。

津波警報・注意報の分類について

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表（発表基準）	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超（10m<高さ）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	巨大な津波が襲い木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報	10m（5m<高さ≦10m）	巨大		
大津波警報	5m（3m<高さ≦5m）	巨大		
津波警報	3m（1m<高さ≦3m）	高い		標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m（0.2m≦高さ≦1m）	（表記しない）	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。 養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。

※気象庁より

一人一人が備えてこそ！
防災力UP！鳥羽
vol.161
総務課防災危機管理室
TEL 25-1118



みんなでこそだて
だっこでほっと

子育て支援センターのあそびの広場「だっこ」は開設から19年を迎えました。「だっこ」という名前は、お母さんの抱っこのようなあたたかい温もりを感じられる場所であってほしいとの願いを込めて名付けられました。抱っこされると、子どもは体温や心臓の鼓動を感じ、安心感に包まれます。保護者も子どももほっとできる居場所でありたいという思いが込められています。

開設当時と比べると、子どもの数は減り、少子化が進んでいます。だからこそ一人ひとりの子どもと保護者に寄り添い、子育てを応援していきたいと考えています。

「『だっこ』ってどんなところだろう」、「人が多い場所は少し苦手だな」と思われていたかたも、お子さんが夢中になって遊ぶ姿に新たな発見をしたり、保護者同士でさまざまな情報共有をするなかで、「もっと早く来ればよかった」、「みんなと話ができてよかった」と仲間とのつながりを感じ、ほっとした時間を過ごしていただいています。助産師も常駐していますので、妊娠中のかたも大歓迎です。

また、子育て支援センターでは親子で楽しめるさまざまなイベントや講座を開催したり、一時保育やこども誰でも通園制度など、子育て家庭を支える事業も行っています。

困ったことや気になることがあれば、どんな小さなことでも気軽に相談してください。これからも「だっこ」が温もりを感じられる場所として、みなさんと一緒に子どもたちの成長を見守り、安心して子育てをしていける場であり続けたいと思います。

こども誰でも通園制度

一時保育

子育て支援センター
TEL 25-7225